桃殺菌剤

クプロシールド

R4・新規

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　せん孔細菌病

3. 試験内容

(1)実施場所　弘前市笹舘　　(2)実施農家　増田　剛

(3)実施支店　弘前北支店　　(4)担 当 者　成田　将平

(5)概要

作 物 名	桃	品　　種	川中島白桃
樹　　齢	9 年	栽植密度	8.0 m × 8.0 m 16 本/10a
開 花 日	4 月 27 日	収穫始め	8 月 27 日

(6)試験構成

試験面積　10 a　(試験区　10 a　対照区　　a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量
5 月 6 日	クプロシールド	1,000	250 リットル				リットル
5 月 6 日	ダントツ水溶剤	2,000	250 リットル				リットル
5 月 6 日	クレフノン	100	250 リットル				リットル
5 月 6 日	アビオン E	1000	250 リットル				リットル
			リットル				リットル

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	発生状況	対照区との比較
せん孔細菌病	少ない	

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

高い効果が見られた。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	3	4

(2)評価の理由

散布効果　ほぼ発生は見られなかった。

実用性　薬害等は見られなかった。

使いやすさ　炭カルとの混用のため、調合の際若干手間ではある。

(3)その他特記事項

収穫後 9 月 22 日にも散布。

桃殺菌剤

クプロシールド

R4・新規

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　せん孔細菌病

3. 試験内容

(1)実施場所　弘前市糠坪　(2)実施農家　河越　一之

(3)実施支店　弘前西支店　(4)担 当 者　今　修平

(5)概要

作 物 名　桃　品　種　川中島白桃

樹　齢　15 年　栽植密度　7.0 m × 7.0 m　20 本/10a

開 花 日　4 月 25 日　収穫始め　8 月 28 日

(6)試験構成

試験面積　20 a　(試験区　10 a　対照区　10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量
5 月 3 日	クプロシールド	1,000	250 リットル				リットル
5 月 3 日	クレフノン	100	250 リットル				リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	発生状況	対照区との比較
せん孔細菌病(収穫時)	普通	

(2)薬害の発生

有

(3)農家の意見

良く効いていた。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	3	4

(2)評価の理由

散布効果　良好

実用性　あり。

使いやすさ　普通。

(3)その他特記事項

開花直前と落花直後の間隔が空くため、特散として使用した。薬害は農薬特有の葉に穴が開くものだった。

おうとう殺虫剤

エクシレル SE

R4・継続

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　オウトウショウジョウバエ

3. 試験内容

(1) 実施場所　弘前市中別所　(2) 実施農家　工藤　俊一

(3) 実施支店　弘前西支店　(4) 担 当 者　今　修平

(5) 概要

作 物 名　おうとう　品　種　佐藤錦

樹　齢　20 年　栽植密度　7.0 m × 7.0 m　20 本/10a

開 花 日　4 月 24 日　収穫始め　6 月 29 日

(6) 試験構成

試験面積　10 a　(試験区　5 a　対照区　5 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量
6 月 15 日	エクシレル SE	2,500	400 リットル	6 月 15 日	テルスターフロアブル	4,000	400 リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル

4. 試験結果

(1) 防除効果

対象病害虫	発生状況	対照区との比較
オウトウショウジョウバエ	普通	同等

(2) 薬害の発生

無

(3) 農家の意見

どちらの剤も良く効いていた。

5. 評価

(1) 資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2) 評価の理由

散布効果　対照区と同等のため。

実用性　対照区と同等のため。

使いやすさ　対照区と同等のため。

(3) その他特記事項

おうとう殺虫剤

エクシレル SE

R4・継続

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　オウトウショウジョウバエ

3. 試験内容

(1)実施場所　弘前市一野渡　　(2)実施農家　齋藤　豪

(3)実施支店　弘前東支店　　(4)担 当 者　小竹　輝人

(5)概要

作 物 名　おうとう　　品　　種　佐藤錦

樹　　齢　13 年　　栽植密度　7.0 m × 7.0 m　20 本/10a

開 花 日　4 月 23 日　　収穫始め　7 月 10 日

(6)試験構成

試験面積　5 a　(試験区　2 a　　対照区　3 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量
6 月 25 日	エクシレル SE	2,500	400 リットル	6 月 25 日	テルスター フロアブル	4,000	400 リットル
6 月 25 日	インダー フロアブル	5,000	400 リットル	6 月 25 日	インダー フロアブル	5,000	400 リットル
			リットル				リットル

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	発生状況	対照区との比較
オウトウショウジョウバエ	少ない	同等

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

新規剤で他の剤と交互に使える。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	4	4

(2)評価の理由

散布効果　対照区と同等のため。

実用性　あり。

使いやすさ　対照区と同等のため。

(3)その他特記事項

ぶどう殺虫剤

エクシレル SE

R4・継続

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　アザミウマ類、コガネムシ類

3. 試験内容

(1)実施場所　藤崎町中野目　(2)実施農家　長利　勝

(3)実施支店　藤崎支店　(4)担 当 者　鳴海　清志郎

(5)概要

作 物 名　ぶどう　品　種　スチューベン

樹　齢　24 年　栽植密度　2.5 m × 2.5 m 160 本/10a

開 花 日　6 月 13 日　収穫始め　9 月 21 日

(6)試験構成

試験面積　30 a（試験区　10 a　対照区　20 a）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量
7 月 14 日	エクシレル SE	5,000	160 リットル	7 月 14 日	コテツフロアブル	2,000	160 リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	発生状況	対照区との比較
アザミウマ類	少ない	同等
コガネムシ類	少ない	同等

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

効果に差はみられなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　対照区と同等のため。

実用性　対照区と同等のため。

使いやすさ　対照区と同等のため。

(3)その他特記事項

ぶどう殺虫剤

エクシレル SE

R4・継続

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　アザミウマ類、コガネムシ類

3. 試験内容

(1)実施場所　弘前市高屋　(2)実施農家　齋藤　弘昭

(3)実施支店　岩木支店　(4)担 当 者　葛西　隆芳

(5)概要

作 物 名　ぶどう　品　種　スチューベン

樹　齢　25 年　栽植密度　6.0 m × 2.5 m　66 本/10a

開 花 日　6 月 14 日　収穫始め　9 月 22 日

(6)試験構成

試験面積　20 a　(試験区　10 a　対照区　10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量
7 月 4 日	エクシレル SE	5,000	300 リットル	7 月 4 日	コテツフロアブル	2,000	300 リットル
7 月 4 日	ストロビーDF	2,000	300 リットル	7 月 4 日	ストロビーDF	2,000	300 リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	発生状況	対照区との比較
アザミウマ類	少ない	同等
コガネムシ類	少ない	同等

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

コガネムシに対して効果が高いように感じられた。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	3	4

(2)評価の理由

散布効果　あり。

実用性　あり。

使いやすさ　対照区と同等のため。

(3)その他特記事項

桃殺虫剤

エクシレル SE

R4・新規

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　モモシンクイガ

3. 試験内容

(1)実施場所　弘前市原ケ平　(2)実施農家　小林　範義

(3)実施支店　弘前東支店　(4)担 当 者　小竹　輝人

(5)概要

作 物 名　桃　品　種　あかつき、川中島

樹　齢　8 年　栽植密度　7.0 m × 7.0 m　20 本/10a

開 花 日　4 月 23 日　収穫始め　8 月 22 日

(6)試験構成

試験面積　10 a　(試験区　5 a　対照区　5 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量
8 月 20 日	エクシレル SE	5,000	400 リットル	8 月 20 日	フェニックスフロアブル	4,000	400 リットル
8 月 20 日	ベルクート	2,000	400 リットル	8 月 20 日	ベルクート	2,000	400 リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	発生状況	対照区との比較
モモシンクイガ	少ない	同等

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

新規剤で他の剤と交互に使える。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	4	4

(2)評価の理由

散布効果　対照区と同等のため。

実用性　あり。

使いやすさ　対照区と同等のため。

(3)その他特記事項

桃殺虫剤

エクシレル SE

R4・新規

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　モモシンクイガ

3. 試験内容

(1) 実施場所　大鰐町駒木　　(2) 実施農家　前田　幸雄

(3) 実施支店　大鰐支店　　(4) 担 当 者　古川　賢一

(5) 概要

作 物 名　桃　　品　　種　川中島白桃

樹　　齢　10 年　　栽植密度　7.0 m × 7.0 m　20 本/10a

開 花 日　4 月 28 日　　収穫始め　8 月 23 日

(6) 試験構成

試験面積　40 a　(試験区　20 a　　対照区　20 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量
7 月 11 日	エクシレル SE	5,000	400 リットル	7 月 11 日	サムコル 10 フロアブル	5,000 倍	400L リットル
7 月 11 日	ロブラール水和剤	1,500	400 リットル	7 月 11 日	ロブラール水和剤	1,500 倍	400L リットル
			リットル				リットル

4. 試験結果

(1) 防除効果

対象病害虫	発生状況	対照区との比較
モモシンクイガ	少ない	同等

(2) 薬害の発生

無

(3) 農家の意見

問題なし。

5. 評価

(1) 資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2) 評価の理由

散布効果　対照区と同等のため。

実用性　対照区と同等のため。

使いやすさ　対照区と同等のため。

(3) その他特記事項

ぶどう殺菌剤

オロンディスウルトラ SC

R4・新規

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　べと病

3. 試験内容

(1) 実施場所　藤崎町俵舛　　(2) 実施農家　木村　隆志

(3) 実施支店　藤崎支店　　(4) 担 当 者　鳴海　清志郎

(5) 概要

作 物 名　ぶどう　　品　　種　シャインマスカット

樹　　齢　8 年　　栽植密度　4.0 m × 20.0 m　12 本/10a

開 花 日　6 月 20 日　　収穫始め　9 月 20 日

(6) 試験構成

試験面積　10 a　（試験区　5 a　　対照区　5 a）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量
9 月 3 日	オロンディスウルトラ SC	2,000	250 リットル	9 月 3 日	レーバスフロアブル	2,000	250 リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル

4. 試験結果

(1) 防除効果

対象病害虫	発生状況	対照区との比較
べと病	多い	優る

(2) 薬害の発生

無

(3) 農家の意見

病気の拡大が抑えられ、とても良く効いた。

5. 評価

(1) 資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	3	4

(2) 評価の理由

散布効果　あり。

実用性　あり。

使いやすさ　対照区と同等のため。

(3) その他特記事項

ぶどう殺菌剤

オロンディスウルトラ SC

R4・新規

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　べと病

3. 試験内容

(1) 実施場所　藤崎町俵舛　　(2) 実施農家　長利　勝

(3) 実施支店　藤崎支店　　(4) 担 当 者　鳴海　清志郎

(5) 概要

作 物 名　ぶどう　　品　　種　スチューベン

樹　　齢　24 年　　栽植密度　2.5 m × 2.5 m 160 本/10a

開 花 日　6 月 13 日　　収穫始め　9 月 21 日

(6) 試験構成

試験面積　30 a （試験区　10 a　対照区　20 a）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量
8 月 6 日	オロンディスウルトラ SC	2,000	160 リットル	8 月 6 日	レーバスフロアブル	2,000	160 リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル

4. 試験結果

(1) 防除効果

対象病害虫	発生状況	対照区との比較
べと病	多い	同等

(2) 薬害の発生

無

(3) 農家の意見

効果に差はみられなかった。

5. 評価

(1) 資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2) 評価の理由

散布効果　対照区と同等のため。

実用性　対照区と同等のため。

使いやすさ　対照区と同等のため。

(3) その他特記事項

ぶどう殺菌剤

ベネセット水和剤

R4・継続

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　晩腐病、べと病

3. 試験内容

(1)実施場所　藤崎町俵舛　　(2)実施農家　木村　隆志

(3)実施支店　藤崎支店　　(4)担 当 者　鳴海　清志郎

(5)概要

作 物 名　ぶどう　　品　　種　スチューベン

樹　　齢　30 年　　栽植密度　2.0 m × 2.5 m 200 本/10a

開 花 日　6 月 13 日　　収穫始め　9 月 26 日

(6)試験構成

試験面積　35 a （試験区　20 a　対照区　15 a）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量
6 月 21 日	ベネセット水和剤	1,000	300 ㍑	6 月 21 日	リドミルゴールド MZ	1,000	300 ㍑
6 月 21 日	ピクシオ DF	2,000	300 ㍑	6 月 21 日	ピクシオ DF	2,000	300 ㍑
6 月 21 日	イカズチ WDG	1,500	300 ㍑	6 月 21 日	イカズチ WDG	1,500	300 ㍑

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	発生状況	対照区との比較
晩腐病	無	同等
べと病	無	同等

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

対照区より汚れが少ないように感じられた。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	4	4

(2)評価の理由

散布効果　対照区と同等のため。

実用性　あり。

使いやすさ　あり。

(3)その他特記事項

ぶどう殺菌剤

ベネセット水和剤

R4・継続

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　晩腐病、べと病

3. 試験内容

(1)実施場所　藤崎町俵舛　　(2)実施農家　佐藤　寿徳

(3)実施支店　藤崎支店　　(4)担 当 者　鳴海　清志郎

(5)概要

作 物 名　ぶどう　　品　　種　スチューベン

樹　　齢　20 年　　栽植密度　2.5 m × 2.5 m 160 本/10a

開 花 日　6 月 13 日　　収穫始め　9 月 24 日

(6)試験構成

試験面積　25 a （試験区　15 a　対照区　10 a）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量
6 月 22 日	ベネセット水和剤	1,000	200 リットル	6 月 22 日	リドミルゴールド MZ	1,000	400 リットル
6 月 22 日	イカズチ WDG	1,500	200 リットル	6 月 22 日	イカズチ WDG	1,500	200 リットル
			リットル				リットル

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	発生状況	対照区との比較
晩腐病	無	同等
べと病	無	同等

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

効果に差はみられなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　対照区と同等のため。

実用性　対照区と同等のため。

使いやすさ　対照区と同等のため。

(3)その他特記事項

ぶどう殺菌剤

カナメフロアブル

R4・継続

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　灰色かび病

3. 試験内容

(1)実施場所　藤崎町俵舛　　(2)実施農家　佐藤　寿徳

(3)実施支店　藤崎支店　　(4)担 当 者　鳴海　清志郎

(5)概要

作 物 名　ぶどう　　品　　種　スチューベン

樹　　齢　20 年　　栽植密度　2.5 m × 2.5 m 160 本/10a

開 花 日　6 月 13 日　　収穫始め　9 月 24 日

(6)試験構成

試験面積　25 a （試験区　15 a　　対照区　10 a）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量
7 月 31 日	カナメフロアブル	4,000	200 リットル	7 月 31 日	フルーツセイバー	1,500	200 リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	発生状況	対照区との比較
灰色かび病	少ない	同等

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

効果に差はみられなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　対照区と同等のため。

実用性　対照区と同等のため。

使いやすさ　対照区と同等のため。

(3)その他特記事項

ぶどう殺菌剤

カナメフロアブル

R4・継続

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　灰色かび病

3. 試験内容

(1)実施場所　弘前市宮地　　(2)実施農家　三上　善徳

(3)実施支店　岩木支店　　(4)担 当 者　葛西　隆芳

(5)概要

作 物 名　ぶどう　　品　　種　スチューベン

樹　　齢　25 年　　栽植密度　3.0 m × 3.0 m 111 本/10a

開 花 日　6 月 14 日　　収穫始め　9 月 21 日

(6)試験構成

試験面積　20 a （試験区　10 a　対照区　10 a）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量
5 月 18 日	カナメフロアブル	4,000	120 リットル	5 月 18 日	インダーフロアブル	8,000	120 リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	発生状況	対照区との比較
灰色かび病	無	同等

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

効果に差はみられなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　対照区と同等のため。

実用性　対照区と同等のため。

使いやすさ　対照区と同等のため。

(3)その他特記事項

ぶどう殺虫剤

ディアナ WDG

R4・継続

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　アザミウマ類

3. 試験内容

(1) 実施場所　藤崎町俵舛　　(2) 実施農家　木村　隆志

(3) 実施支店　藤崎支店　　(4) 担 当 者　鳴海　清志郎

(5) 概要

作 物 名　ぶどう　　品　　種　スチューベン

樹　　齢　30 年　　栽植密度　2.0 m × 2.5 m 200 本

開 花 日　6 月 13 日　　収穫始め　9 月 26 日

(6) 試験構成

試験面積　35 a　（試験区　20 a　対照区　15 a）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量
7 月 30 日	ディアナ WDG	10,000	300 ﾘｯﾄﾙ	7 月 30 日	イカズチ WDG	1,500	300 ﾘｯﾄﾙ
7 月 30 日	オンリーワンフロアブル	2,000	300 ﾘｯﾄﾙ	7 月 30 日	オンリーワンフロアブル	2,000	300 ﾘｯﾄﾙ
7 月 30 日	ライメイフロアブル	3,000	300 ﾘｯﾄﾙ	7 月 30 日	ライメイフロアブル	3,000	300 ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1) 防除効果

対象病害虫	発生状況	対照区との比較
アザミウマ類	少ない	同等

(2) 薬害の発生

無

(3) 農家の意見

効果に差はみられなかった。

5. 評価

(1) 資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2) 評価の理由

散布効果　対照区と同等のため。

実用性　対照区と同等のため。

使いやすさ　対照区と同等のため。

(3) その他特記事項

ぶどう殺虫剤

ディアナ WDG

R4・継続

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　アザミウマ類

3. 試験内容

(1) 実施場所　弘前市宮地　　(2) 実施農家　三上　善徳

(3) 実施支店　岩木支店　　(4) 担 当 者　葛西　隆芳

(5) 概要

作 物 名	ぶどう	品　　種	スチューベン
樹　　齢	25 年	栽植密度	3.0 m × 3.0 m 111 本/10a
開 花 日	6 月 14 日	収穫始め	9 月 21 日

(6) 試験構成

試験面積　20 a　(試験区　10 a　対照区　10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量
8 月 6 日	ディアナ WDG	10,000	200 リットル	8 月 6 日	イカズチ WDG	1,500	200 リットル
8 月 6 日	オンリーワンフロアブル	2,000	200 リットル	8 月 6 日	オンリーワンフロアブル	2,000	200 リットル
			リットル				リットル

4. 試験結果

(1) 防除効果

対象病害虫	発生状況	対照区との比較
アザミウマ類	少ない	同等

(2) 薬害の発生

無

(3) 農家の意見

効果に差はみられなかった。

5. 評価

(1) 資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2) 評価の理由

散布効果　対照区と同等のため。

実用性　対照区と同等のため。

使いやすさ　対照区と同等のため。

(3) その他特記事項

ぶどう殺菌剤

ゾーベックエニベル顆粒水和剤

R4・継続

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　晩腐病、べと病

3. 試験内容

(1)実施場所　藤崎町中野目　(2)実施農家　長利　勝

(3)実施支店　藤崎支店　(4)担 当 者　鳴海　清志郎

(5)概要

作 物 名　ぶどう　品　種　スチューベン

樹　齢　24 年　栽植密度　2.5 m × 2.5 m 160 本/10a

開 花 日　6 月 13 日　収穫始め　9 月 21 日

(6)試験構成

試験面積　30 a（試験区　10 a　対照区　20 a）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量
6 月 30 日	ゾーベックエニベル顆粒水	750	160 リットル	6 月 30 日	リドミルゴールド MZ	1,000	160 リットル
6 月 30 日	イカズチ WDG	1,500	160 リットル	6 月 30 日	イカズチ WDG	1,500	160 リットル
			リットル				リットル

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	発生状況	対照区との比較
晩腐病	無	同等
べと病	無	同等

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

対照区より残効が長い感じがする。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　対照区と同等のため。

実用性　対照区と同等のため。

使いやすさ　対照区と同等のため。

(3)その他特記事項

ぶどう殺菌剤

ゾーベックエニベル顆粒水和剤

R4・継続

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　べと病

3. 試験内容

(1)実施場所　弘前市高屋　　(2)実施農家　齋藤　弘昭

(3)実施支店　岩木支店　　(4)担 当 者　葛西　隆芳

(5)概要

作 物 名　ぶどう　　品　　種　スチューベン

樹　　齢　25 年　　栽植密度　6.0 m × 2.5 m　66 本/10a

開 花 日　6 月 14 日　　収穫始め　9 月 22 日

(6)試験構成

試験面積　20 a　(試験区　10 a　　対照区　10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量
6 月 22 日	ゾーベックエニベル顆粒水	750	200 リットル	6 月 22 日	リドミルゴールド MZ	1,000	200 リットル
6 月 22 日	イカズチ WDG	1,500	200 リットル	6 月 22 日	イカズチ WDG	1,500	200 リットル
			リットル				リットル

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	発生状況	対照区との比較
べと病	無	同等

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

効果に差はみられなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	4	4

(2)評価の理由

散布効果　対照区と同等のため。

実用性　あり。

使いやすさ　溶けやすく汚れが少ない。

(3)その他特記事項

桃殺菌剤

コサイド3000

R4・継続

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　せん孔細菌病

3. 試験内容

(1)実施場所　弘前市高杉　(2)実施農家　葛西　利直

(3)実施支店　弘前西支店　(4)担 当 者　今　修平

(5)概要

作 物 名　桃　品　種　川中島白桃

樹　齢　20年　栽植密度　7.0 m × 7.0 m　20 本/10a

開 花 日　4月25日　収穫始め　8月26日

(6)試験構成

試験面積　20 a　(試験区　10 a　対照区　10 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
9月15日	コサイド3000	2,000	300 リットル	9月15日	ICボルドー	30	300 リットル
9月15日	クレフノン	100	300 リットル				リットル
9月30日	コサイド3000	2,000	300 リットル	9月30日	ICボルドー	30	300 リットル
9月30日	クレフノン	100	300 リットル				リットル
			リットル				リットル

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	発生状況	対照区との比較
せん孔細菌病(収穫時)	普通	同等

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

混用しやすい。効果は同程度だった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	4	4

(2)評価の理由

散布効果　対照区と同等のため。

実用性　あり。

使いやすさ　ICボルドーを混合するより使いやすい。

(3)その他特記事項

来年度の結果で判断したい。

桃殺菌剤

コサイド3000

R4・継続

1. 試験目的　防除効果確認

2. 対象病害虫　せん孔細菌病

3. 試験内容

(1)実施場所　弘前市原ケ平　(2)実施農家　小林　範義

(3)実施支店　弘前東支店　(4)担 当 者　小竹　輝人

(5)概要

作 物 名　桃　品　種　あかつき、川中島

樹　齢　8年　栽植密度　7.0 m × 7.0 m　20 本/10a

開 花 日　4月23日　収穫始め　8月22日

(6)試験構成

試験面積　10 a　(試験区　5 a　対照区　5 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
9月24日	コサイド3000	2,000	350 リットル	9月24日	ICボルドー	30	350 リットル
9月24日	クレフノン	100	350 リットル				リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	発生状況	対照区との比較
せん孔細菌病	普通	同等

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

ボルドーよりドリフトが少ない。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	4	3

(2)評価の理由

散布効果　対照区と同等のため。

実用性　対照区と同等のため。

使いやすさ　対照区と同等のため。

(3)その他特記事項

桃展着剤

アビオン-E

R4・継続

1. 試験目的　展着効果確認(せん孔細菌病対策)

2. 試験内容

(1)実施場所　弘前市笹舘　　(2)実施農家　増田　剛

(3)実施支店　弘前北支店　　(4)担 当 者　成田　将平

(5)概要

作 物 名　桃　　品　　種　川中島白桃

樹　　齢　9 年　　栽植密度　8.0 m × 8.0 m　16 本/10a

開 花 日　4 月 27 日　　収穫始め　8 月 27 日

(6)試験構成

試験面積　10 a　(試験区　10 a　　対照区　0 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量
4 月 26 日	アビオン-E	1,000	250 リットル				リットル
～	IC ボルドー412	30	250 リットル				リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル

3. 試験結果

(1)効果

展着効果	備考	対照区との比較
あり		優る

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

発生は少なかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	2	4

(2)評価の理由

散布効果　発生が見られなかったため。

実用性　薬害等の発生はみられなかった。

使いやすさ　価格で劣る。

(3)その他特記事項

対照区が作れなかったが、園地全体で発生はほぼ見られなかった。

桃展着剤

アビオン-E

R4・継続

1. 試験目的　展着効果確認（せん孔細菌病対策）

2. 試験内容

(1) 実施場所　大鰐町唐牛　　(2) 実施農家　小竹　重喜

(3) 実施支店　大鰐支店　　(4) 担 当 者　古川　賢一

(5) 概要

作 物 名　桃　　品　　種　川中島白桃

樹　　齢　15 年　　栽植密度　7.0 m × 7.0 m　20 本/10a

開 花 日　4 月 26 日　　収穫始め　8 月 24 日

(6) 試験構成

試験面積　20 a　（試験区　10 a　　対照区　10 a）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a 当散布量
4 月 26 日	アビオン-E	1,000	250 リットル	4 月 26 日	展着パウダー30	10,000	250 リットル
4 月 26 日	マイコシールド	2,000	250 リットル	4 月 26 日	マイコシールド	2,000	250 リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル
			リットル				リットル

3. 試験結果

(1) 効果

展着効果	備考	対照区との比較
あり		優る

(2) 薬害の発生

無

(3) 農家の意見

発生は少ない。

5. 評価

(1) 資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	3	4

(2) 評価の理由

散布効果　対照区より優れるため。

実用性　対照区より優れるため。

使いやすさ　対照区より倍数が高濃度かつ価格も高いため。

(3) その他特記事項